

日本地球電気磁気学会会報 (第42号)

1969年11月10日

日本地球電気磁気学会
事務所 東京都文京区弥生2丁目11の16
郵便番号 113
東京大学理学部地球物理学教室内
電話 03-812-211 内線6476
振替 東京 4860番

第46回 総会報告

昭和44年10月26日 15時45分～17時00分

愛知県産業貿易会館

近藤一郎会員の開会の辞に続いて、斎藤尚生会員が力武委員長より総会議長に指名されて、総会が開始された。

1. 関戸弥太郎大会委員長より、挨拶と歓迎の言葉が述べられた。

2. 報告

a 新入会員紹介 10月23日までに入会された会員の紹介があった(別表参照)

b 南極観測事業について

第45回総会で、南極問題をどのように取り扱うか運営委員会で検討するようにとの要請があった。運営委員会で検討した結果、会員有志がその見解をまとめて建設的な原案を作製し、運営委員会に提出すれば、運営委員会ではこれを検討し、総会において各会員の意向を問う労をとるが、運営委員会自らが原案を作製すべきではない

という結論に達した(第52回運営委員会)

c. 長谷川基金

長谷川名誉委員長より、本年6月、10万円の寄付があり、現在基金は50万円に達した。

d. 文部省助成金

JGGの出版に対して出されている文部省助成金が今年は17万円(昨年より5万円減額)となった。

e. 会誌

現在JGGは、21巻3号を印刷中でその後の原稿の集まりも順調である。

3. 田中館賞

力武委員長より大塩光夫会員に授与された後、論文の審査経過の報告がなされた。

第48号 大塩光夫氏「電離層突然擾乱とそれに対応する太陽電磁輻射」

4. 長谷川記念杯贈呈

関戸弥太郎会員に本学会ならびに地球電気磁気学界に対する功績をたたえて、第4号長谷川記念杯ならびに感謝状が贈呈された。

5. 力武常次委員長より挨拶があった。その中で長谷川名誉委員長が本年4月より専売公社京都病院に御入院中なので、学会よりお見舞いとして鉢植えを贈ったとの報告があった。これに対して、長谷川名誉委員長より、お礼の言葉と除々にではあるが快方に向いつつあり11月には退院の予定であるとの伝言が、太田会員によって読み上げられた。更に力武委員長より本年度松永賞が福島会員に授与されることになったとの連絡を受けたことが明らかにされ、福島会員にお祝いの言葉が述べられた。

6. 議 事

定員数118名を上回る129名（出席者79，委任状50）の出席者があった。

a 会費値上げに関する規約改正

小口運営委員より次のように提案理由の説明があった。

昭和36年以降の収入，支出を図示すると収入は殆んど横ばい状態であるのに対して，支出は，物価指数と同様急激に増加している。数年前にはかなりの額であった繰越金が最近では毎年約30万円ずつ減少しており，数年内に赤字財政に転化することは必至である。学会の総支出を会員1人当りになおすと年間約8,000円となる。その半額が会誌の出版に支出されている。現在は，正会員（会費1,500円）が増える程赤字が増加するという矛盾した状態にある。対策として a) 会費値上げ b) 会誌に広告を掲載する c) 別刷代値上げ d) 賛助会員募集 が考えられるが，会誌の印刷費が最近15%値上げされたことを考えると，a) 会費値上げ以外に現在の財政悪化を阻止する方法がない。次のような会費値上げ案を提案する。

正会員会費	1,500円	を	2,500円に
学生会費	800円	を	1,500円に
外国会員会費	\$ 5.00	を	\$ 8.00に
準会員会費	\$ 7.00	を	\$ 10.00に

これに対して，種々の意見が出され，次の規約改正案がはかられた。

現 行 第7条 会員は次の会費を納付しなければならない。

1. 正会員は年額1,500円 但し正会員中，学生の身

分にあるもので所定の手続きを経たものは半額800円とする。

改正案 第7条 会員は次の会費を納付しなければならない。

1. 正会員は年額2,500円 但し正会員中、学生の分にあるもので所定の手続きを経たものは年額1,500円とする。

採決の結果賛成67票，反対0票，保留12票で可決された。この後等松運営委員より会費の納入について春秋2回の分割払いを認める方法で納入方法を運営委員会で検討したいとの意見が述べられた。

b 次期総会および講演会の開催地

西田運営委員より次期開催候補地として，電波研究所が提案された。これに対し，中田会員よりお引き受けして実現に努力する旨の発言があった。

6. 前田坦評議員より名古屋大学理学部の皆様が，講演会で2ヶのスライドプロジェクターを使用する“Twin System”を採用されたり，会の円滑な運営のためにも払われた数々の努力に対して謝辞が述べられ閉会した。

第46回 総会並びに講演会後記

第46回日本地球電気磁気学会総会ならびに講演会は，10月24日から10月27日までの4日間，名古屋市の名古屋城を会場の窓から望むことのできる愛知県産業貿易館において予定通り開催されました。関戸弥太郎大会委員

長ほか、名古屋大学理学部の皆様方の行き届いたお世話によって大変快い4日間過させて頂きました。

総計115篇の一般講演の申込みがあり、2日間は2つの会場に分れて講演が行われました。若干の取り消しがあり、実際には110篇の講演が行われ多くの参会者によって活潑な討論が行われました。

3日目、10月26日には特別講演として

G. Haerendel 氏 (Max Planck Inst)

「Electric Fields in the Magnetosphere Measured with Barium Plasma Clouds」

永田 武 氏 (東大理)

「地球電磁気学の展望」

B. Fogle, B. Haurwitz (NCAR 提供)

解説 加藤 進 氏 (京大工)

「夜光雲の観測」(映画)

の大変興味深い講演と映画を見せて頂きました。

特別講演に続いて、記念撮影、第46回総会が別項報告の通り開かれ、最後に前田坦評議員より会員を代表してこの総会ならびに講演会の一切のお世話をして下さった関戸弥太郎大会委員長はじめ名古屋大学理学部の方々に対して感謝の言葉が述べられて総会を終了しました。総会終了後、会場近くの中華料理店大珠江で、恒例の懇親会がなごやかに催されました。

総会の前田坦評議員の謝辞の中にもありましたように、スライド投影机2台を同時に使用した講演会は、本学会では初めての試みで、講演者一同大変便利に感じました。

以上のような経過で、4日間の大会を非常に円滑に充実して終了することが

できました。これは一重に大会をお世話下さった関戸大会委員長はじめ、名古屋
屋大学理学部の皆様方の並々ならぬ御尽力の賜物であります。この紙面を借り
て厚くお礼を申し上げる次第です。

学会費の改訂について

第46回総会の決議にもとずき日本地球電気磁気学会会費を昭和45年度よ
り下記のごとく改訂します。

一般正会員会費年額	2,500円
学生正会員会費年額	1,500円
外国会員会費年額	\$ 8.00
準会員会費年額	\$ 10.00

なお会費分割納入などについて運営委員会において引き続き検討することに
なっております。

地球物理研究連絡委員会 地球電気磁気分科会報告

開催日時 昭和44年10月26日

会場 地球電気磁気学会会場（名古屋）

出席者 力武，前田（憲），太田，永田，関戸，前田（坦），福島，
上山（代 斎藤），大林，

議 事 1) 今年9月にスペインで開催された General Scientific

Assembly of the International Association of
Geomagnetism and Aeronomy における状況の報告，説明が
力武，永田，太田委員によって行なわれ了承された。

- 2) Scientific Sessions の内容報告は学会特別講演として永田委員からなされる。
- 3) IUGG 及び関連する Unions の改組案に関する問題については今回はフランス案が提出されたが，IUGG としては Coulomb を中心とした委員会をつくって今後の方策を検討することになった。なお URSI では Beynon を中心とする同様の委員会がつくられる。
- 4) 上記の改組案に関連して，永田委員が IAGA 会長としての意見を述べられ，IUGG をまず3つ程度のグループに分けて独立に運営することの可否が論議された。グループ分けは Solid Earth (IAG, IASPEI, IAVCEI), meteorology and Oceanography (IAMAP, IAPO, IASH), Upper Atmosphere and Outer Space (IAGA),

この案については IUGG 会長 Coulomb から永田委員に，日本から提案してほしいとの要望もあり，討議の結果，電磁気分科としては，この考えをまとめて地物研連にもちこみ，National Committee から IUGG に提案することができるよう申入れることになった。具体的には力武委員長が地物研連の主任幹事会で相談して決める。

新 入 会 員 紹 介

荒 木 喬 (東北大. 地物)
田 辺 弘 道 (" ")
三 澤 清 敏 (防大. 数物科)
山 田 弘 善 (東大, 宇宙研)
屋 敷 弘 (金沢大. 地学)
雨 宮 宏 (理 研)
芳 野 越 夫 (電通大. 電波物理)
棚 橋 秀 伍 (名大. 空電研)
田 中 浩 (電波研. 鹿島)
青 木 滯 (九州農試土肥一研)
森 洋 介 (東北大. 地物)

Hans G. Barszczus (O.R.S.T.O.M.)

Conelius O. Oluwatemi (Univ of Ibadan)

Solar-Terrestrial Physics 国際シンポジウム

PROGRAM COMMITTEE
for the
INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON SOLAR-TERRESTRIAL PHYSICS 1970
(Sponsored by IAU, IUGG/IAGA, URSI, and COSPAR)
Leningrad, USSR, May 1970

SECOND CIRCULAR

26 September 1969

New Provisional Schedule

Monday, 11 May: { Registration
Opening of Symposium
Results of the Proton Flare Project
1969

Wednesday-Thursday
12 - 14 May: { Parallel Sessions on
I. The Sun
III. The Magnetosphere

Friday, Monday, Tuesday
15, 18, and 19 May: { Parallel Sessions on
II. The Interplanetary Medium
IV. Upper Atmosphere Physics

Wednesday, 20 May: Registration (COSPAR only); Official
Ceremony
(Wednesday, 20 May-Friday, 29 May: COSPAR meetings)

List of Topics

- I. The Sun as a Source of Energy and Disturbances
- II. The Magnetosphere
- III. The Magnetosphere
- IV. Upper Atmosphere Physics

詳細については学会事務所に案内がまいてありますのでお申し出下されば、
コピーを差上げます。